

ナビシステム活用へ

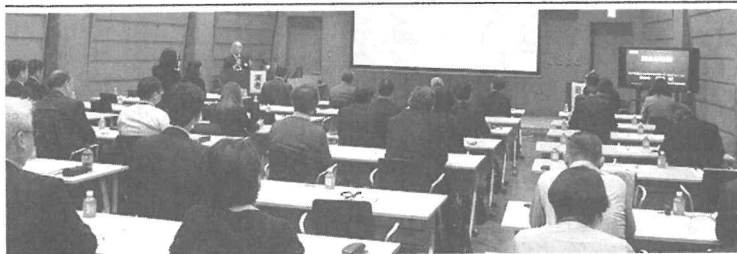
OCHIS 健康対策セミナーを開催

運輸業界の健康法とマナーシメントの「見える化」を実現し、運輸事業者の労働環境やドライバーの生活習慣までも明らかにした運輸ヘルスケアナビシステム。運用開始から3年目を迎え、初めて全容が明らかになり、貴重な情報提供のほか、ナビシステムを活用した事業者による体験談の披露も行われた。

ヘルスケアネットワーク(OCHIS)は7日、大阪大学中之島センターで第14回OCHISセミナーを開催。テーマは「安全・健康対策へのアプローチ手

法とマナーシメントの「見える化」を実現し、運輸事業者の労働環境やドライバーの生活習慣までも明らかにした運輸ヘルスケアナビシステム。運用開始から3年目を迎え、初めて全容が明らかになり、貴重な情報提供のほか、ナビシステムを活用した事業者による体験談の披露も行われた。

武田裕理事長は「当セミナーは当初、SASをテーマにしてきたが、近年では社会全般に人手不足や高齢化など、多くの問題を抱えながら、健康起因事故をどう防ぐか、ドライバーの働き方改革をどう支援するかという大きな問題に広がっている。OCHISは、少しでも業界の方やドライバー



の方の安全と安心をサポートしたいというこ

黒田悦子保健師 三和運輸機工(神奈川県川崎市)常務

フォロアアップアンケートから見えてきたドライバーの働き方や健康を紹介。ドライバーの食習慣に

取締役の中山学氏が「運輸ヘルスケアナビシステムの活用と社内の意識変化」をテーマに講演。要治療・要生活改善者が9割を超えた中で、社内の意識改革と、社内に健診の数値の良し悪しを判断できる人材がない場合が多いことから、健診結果の「見える化」の重要性を説明した。(木村麻理奈)